

議長（明和善一郎君） 4番 森 弘秋君。

4番（森 弘秋君） 先日、けさの新聞もそうでしたが、こんな記事が載っております。日本創生会議が、東京圏の75歳以上の高齢者を、高齢者急増対策として、医療・介護施設や人材に余裕がある26道府県に移住を促すことを求める提言がまとまったそうです。移住先の候補に富山医療圏も含まれており、我が舟橋村も射程の中です。考え方は、地方も人口が増え、雇用の維持、創出につながるそうです。諸条件があるかもしれませんが、何かやりきれない感じがいたします。

さて私は、昨年12月議会で、各地域にアットホーム的な集会場、憩いの場の整備について質問をしたところ、村長は、単に施設を整備することだけでエイジレス世代の交流促進につながるとは限らない。既存施設の有効利用を図った上で、不足する機能を整備していくことが肝要であると答弁されました。

ゲートボール場の整備に加え部室の整備を実施し、今は快適に使用しております。さらには、高齢者の交流はもとより、隣接する学童保育室の子どもたちがその場所で勉強をしたいという希望があるそうです。とすれば、その保護者との交流も図れます。村民同士の交流が希薄化する中で、まさに一石二鳥であると考えられます。

続いて、学童保育室の前面道路には、反対の中学校側へ渡れる横断歩道も整備されるそうです。学童並びに高齢者の横断等に安心・安全が確保されます。

村民の融合を図るため、どのような仕掛けをするかであります。

また、同施設をオレンジ・パークを利用する人たちの休憩場に利用することもできると思います。そのためには、後から述べますが、オレンジ・パークの中間地点にビッグな橋をかけることも視野に入れてはどうでしょうか。

新聞報道にもありましたように、高齢者の憩いの場として、そして高齢者の居場所、仲間づくりとしての施設ができました。エイジレス対策です。

このようなアットホーム的な施設、集会場を村の南側地域、北側地域に整備拡充できないだろうか。

小さな舟橋村ではありますが、現有施設を利用するためには700メートルから1,000メートルの距離を歩かねばなりません。高齢者にとっては負担であると思います。

村長の言うように、既存施設の有効利用を考えることからすれば、例えば、先ほどお話がありましたように、空き家対策、空き家の再利用、空き家バンクに5件だそうですが、その中から「むらのなか」という話がありました。それに不足する機能を整備して

いくことだけと考えれば、高額の予算ではないと考えます。

しかし、このような施設を村の南北地域に整備することは、なかなか簡単には発展しないと思います。また、利用に当たっても難しいと思います。

一つのきっかけをつかむ戦略として、当初の目的の一つでもありましたが、老若男女を問わず活用してもらうため、先ほども申しましたが、学童保育室の勉強部屋として活用してもらうことも大変よい話であります。そして、学童のお母さん方には、時には井戸端会議にも活用してもらいましょう。お母さん方の口コミ宣伝にも期待したいと思います。活用は簡単には伸びないかもしれません。

これらのことを考慮しながら、ぜひとも実現に向けて検討をお願いいたします。

今回、追っかけて村当局の試案を聞きたいと思っております。

さて、村長からの答弁の中で、公園の活用について話がありました。子育て共助のまちづくりモデル事業の中で、今ほどありましたように、京坪川河川公園を生かしたコミュニティ空間醸成事業も実施に向け動き出します。

公園の整備がされる中で、高齢者にも利用してもらうことになれば、現在かけられている東西の2つの橋を渡ることになります。この間、約500メートルの距離があります。歩くことは非常に大事ではあるものの、負担を強いてはいけないと思います。

高齢者の利用もさることながら、村民全体が不便を感じていると思います。そのため、利用しやすくするため、中間地点に橋をかけることを考えていただきたいと考えます。

今後整備されるオレンジ・パークと村道の境界の京坪川に遊歩道を兼ね備えた橋をかけ、村のシンボルとしてアピールできませんか。橋の形をユニークなH型とし、モダンな優美な橋、岩国の錦帯橋的存在です。観光の目玉としてはいかがですかというふうに私も考えます。

ところで、この発想は、第4次舟橋村総合計画のオレンジ・パークの運用でも、「住民一体となった維持運用を進め、住民に愛される公園として整備し、交流の場として活用する」としています。また、オレンジ・パークリニューアル構想でも、「公園を育てる」の考えからすれば、公園も公園の環境も日々進化しております。

オレンジ・パークリニューアル構想の課題の中でも、活用しにくい、動線がよくない、出入り口のアクセスが悪い、また公園アクセスに回遊性がないと指摘しております。

今回も中間地点に公園を利用するための橋をかける提案をしたところ、残念かな、村職員は、県は橋を絶対かけてはならんとの話でした。なぜ？ どこでもかけていると思

いますが、そんな話があるはずがないと思い、土木事務所に出向き確認したところ、そんなことはない。場所等協議をして、ちょっと違うかもしれませんが、橋梁構造令という令があるそうです。合致すればかけることは可能でありますとの答えでした。当たり前であります。どこでも橋をかけております。

政府の言う地域創生は主としてソフト面の整備で、人口減に伴う地域の活性化策は何かの疑問として生まれたものであります。先ほど前原議員からも話がありましたように、知事も6月県議会の提案理由の中で、地方創生・人口減少対策を推進するための財源の確保を国に働きかける考えを示したそうです。

視点を変えて、京坪川河川公園整備事業として、目標を遠大に捉え、一帯をリゾートゾーンとして考え、ホテル等企業の誘致も視野に入れて開発、発展させることはできないだろうかと思えます。

私たち村民も役場職員もフレキシブルな考えを持ち、かたくなに固執する考えはやめたいものです。

また、費用対効果ばかりを考えると、公園整備もままならないというふうに思えます。公園を造成する、橋の整備を含めた事業に費用対効果の考え方はいかなものかというふうに思えます。

公園の効果はすぐには出ない。出るわけがありません。数値ではかれるものではないと思えます。

公園という空間を利用した人が、心にどれだけの満足、価値観を感じるか、育てるかであります。京坪川河川公園を生かし、コミュニティ空間醸成事業という舟に乗りましょう。

最後に、高齢者を問わず村民の融合の居場所となり、まとまりがない話でも、にぎやかな談笑をする場所となれば、これが介護予防になり、認知症を防ぐための一つの方法であります。

これからの高齢化社会を踏まえ、発展的な現実的な整備について村長の考えをお聞きます。

議長（明和善一郎君） 村長 金森勝雄君。

村長（金森勝雄君） 4番森議員さんの高齢者が利用しやすい施設整備についてのご質問にお答えをいたします。

今日は、第1次ベビーブームの団塊世代が後期高齢者となります。2025年に高齢

化率が30%を超えるという超高齢化社会を迎えようとしております。本村におきましても、近い将来には確実に高齢者数が増えていくことが予測されておりまして、高齢者の皆さんが楽しみを持っていただくような場づくりは大切なことであると考えております。

今ほど議員さんより、幹線村道海老江東芦原線からオレンジ・パークふなはしへの歩道橋の設置についてご提案をいただきました。

確かに利便性向上のためのハード整備は、高齢者や子育て世代に受け入れられやすい施策でありますけれども、利便性の向上だけで高齢者の皆さんに居場所や楽しみの場が提供できるものではないと考えております。

現在、本村では、健康構想や環境総合整備計画を基本に、地域に根差したエイジレス対策事業を実施することで、これから退職期を迎える方々を地域に参入できる受け皿の整備を進めているところであります。

やはり地域の住民同士がともに支え合い協力し合う体制が地域の基盤となり、その上に整備された施設があることで、高齢者の居場所が確保されるものと考えております。

また、オレンジ・パークふなはしにつきましては、平成22年度に住民の憩いの場として、村民に親しまれる身近な公園として利用が促進されることを目的といたしました10人の住民有志と職員によるワークショップを開催いたしまして、オレンジ・パーク舟橋リニューアル構想案を取りまとめたところであります。

その後、23年度には、構想案の検討会を実施いたしまして、今後の取り組みを示した基本計画を策定いたしております。

基本計画では、ソフト事業といたしまして、公園利用の機会創出を図りながら地域の公園として愛着と親しみを育ていけるよう、村と住民の協働に向けた村と住民の双方から利用機会を創出していくことが示されておりまして、本村では、平成25年度に開催いたしました村歌の発表会や、毎年の行事となりました保育所年長児による野点が開催されております。

また、住民による組織体でありますまちづくり協議会では、平成26年度から、昨年度からですけれども、桜まつりといたしまして、サクラ・ミーツ・ザ・ファイヤーが開催されるなど、徐々にオレンジ・パークの利用が促進されているところであります。

一方、基本計画のハード事業で要望が多く上げられましたワンドの整備、歩道の整備、大型遊具の検討、バーベキュー場の整備などにつきましては、今後検討することになっ

ております。

中学校と公園を結ぶ歩道橋の設置につきましては、基本計画策定の段階で、設置しても利用者が限定される上、村単独事業で施行することとなり、工事費や設置後の維持管理費も高額になることから、設置しないとの結論に至っております。

また、当時、立山土木事務所に相談いたしましたところ、陸橋として許可することはできないけれども、村が管理する歩道橋として設置するのであれば、橋梁構造に合致することを条件に許可はできるという回答もいただいております。

いずれにいたしましても、オレンジ・パークふなはしの設置目的は、住民交流の促進により住民同士の信頼関係を醸成することにありますので、必要な設備整備につきましては、今年6月に立ち上げます舟橋村創生プロジェクト総合推進会議の中で十分検討してまいりたいと考えております。そういったことで、議員の皆さん方のご理解とご協力をお願い申し上げまして、答弁とさせていただきます。

議長（明和善一郎君） 森 弘秋君。

4番（森 弘秋君） 今ほど答弁ありがとうございました。

北陸新幹線が開通しましたけども、50年かかるとるがですね、50年。私は橋の提案というものを五、六年前から、いろんな提案があるんですが、今聞いておりますと、橋の建設費に1億5,000万か2億かな、何かそれくらいの金がかかるだろうと。だとしても、例えば50年間もてば年間400万。ちょっときついことを言いますけども、駅前の駐車場に払っている金が四百何十万、そんなふうにして見比べることはできませんけども、せっかく住民の皆さん方が、オレンジ・パークを利用しようじゃないか、もっと利用したいんだということで、これから検討されるんですけども、しておるんですから、何とか現実に向けて出発してもらいたいというふうに思います。

2カ年計画か3カ年計画かわかりませんが、若干継続的にやれば、それなりの負担はかかるかもしれませんが、何とかできるんじゃないかということで、今度のまちづくり推進委員会ですか、それに相当期待しておりますので、よろしく願います。

以上。